

神聖な三一、イエスの霊、神の王国 12編のテーマと主要なみ言葉	
神聖な三一 (構造と活動)	使徒 2:33 彼は神の右に引き上げられ、御父から約束された聖霊を受けて、あなたがたが見聞きしているものを、注ぎ出されたのです。
イエスの霊 (構成と導き)	使徒 16:7 彼らがムシヤに来た時、ビテニヤに入って行こうとしたが、イエスの霊が彼らを許さなかった。
神の王国 (主題)	使徒 1:3…四十日にわたって現れ、 神の王国についての事柄を語られた

神聖な三一、イエスの霊、神の王国		
I	神聖な三一、 新約の枠組み、使徒行伝の 構造 神の新約エコノミー遂行のための 活動	A 御子の昇天、御父が彼を引き上げる、その霊の注ぎ出し
		B 聖霊とイエスの霊
		C 神はご自身の血を通して召会を買い取った
II	イエスの霊、 使徒たちの 構成 と行動の 導き	A 要素— 神聖な要素と、人性の要素がある
		B 機能— 神性:わたしたちに神聖な命を生きさせる 人性:正常な人の生活とその苦難に耐えさせる
		C 構成— 主が経られたすべての手順を含む
		D 実際— イエスの霊はイエスの実際です
III	神の王国 使徒たちの宣べ伝えの 主題	A 復活したキリストが語った「神の王国」は、使徒たちの使命と宣べ伝えの主題となった。
		B 神の王国の三方面の意義— ① パースン 、主イエス・キリストご自身
		C ② 召会 は神の王国と並行している
		D ③ 神聖な命 が支配する領域です
		E 多く患難を経て神の王国中へと入る
		F 神の王国の拡大のために戦いが必要です
		G 神の王国を宣べ伝えることは、復活のキリストの増殖です

12週 神聖な三一、イエスの霊、神の王国				
日	段落	思考 路線	主題	要点
1	神聖な 三一	構造 活動	神聖な三一は神のエコノミーを遂行するため	神聖な三一は使徒行伝の 構造 です 三一の神は子の昇天とその霊の注ぎだしにかかわっています
2			イエスの霊と神の血において神聖な三一の活動を	使徒は聖霊とイエスの霊に導かれました 牧養の神はご自身の血を用いて召会を買い取りました
3	イエスの 霊	要素 構成 実際	パウロは聖霊とイエスの霊の要素で構成されました	聖霊とイエスの霊は 要素 と機能と関係があります パウロは福音行動においてイエスの霊で 構成 されていました
4			イエスの実際としてのイエスの霊はわたしたちの表現です	イエスの 実際 としてのイエスの霊をわたしたちは持っている イエスの霊はわたしたちの構成と働きの表現です
5	神の 王国	主題 意義 宣べ伝え	神の王国は、使徒行伝における使徒たちの宣べ伝えの主題です	神の王国は使徒たちの使命において宣べ伝える 主題 です 神の王国の三方面の 意義 (パースン、召会、神の命が支配する領域)
6			神の王国の宣べ伝えは復活のキリストの増殖です	神の王国に入り、拡大するには、 患難と戦い を経なければなりません 神の王国を 宣べ伝える ことは、復活のキリストの増殖です

結びの言葉	
神の王国を宣べ伝えることは、復活のキリストの増殖です	
[牧養]	神聖な三一と協力する
[福音]	イエスの霊で構成される
[教え]	神の王国を宣べ伝え、増殖させる

神聖な三一、イエスの霊、神の王国

聖書：使徒 1:3, 2:32-36, 8:12, 14:22, 16:6-7, 20:28, 28:23, 31

神聖な三一は新約全体の枠組みです：

使徒行伝は神の新約エコノミーを遂行のための活動を明らかにしています。

I. 神聖な三一が新約全体の枠組みであるように、神聖な三一は使徒行伝の構造です。使徒行伝の一章また一章が、神の新約エコノミーを遂行するための、神聖な三一の活動を明らかにしています——例えば、使徒 1:1-2, 4-5, 8, 11, 21, 2:4, 17-18, 21-24, 27, 31-33, 36, 38, 13:2, 4, 7, 9-10, 12, 16, 23, 30, 33-39, 49-50, 52, 28:15, 23, 25, 31 :

***三一の神は、御子の昇天とその霊の注ぎ出しにかかわっています**

A. 三一の神（父、子、霊）は、御子の昇天とその霊の注ぎ出しに完全にかかわっていました——2:32-36 :

1. 御子は昇天し、御父は彼を引き上げ、その霊は注ぎ出されました——ルカ 24:51, ピリピ 2:9, 使徒 1:9-11, 2:32-36。
2. 父、子、霊がすべて、その霊の注ぎ出しと緊密に関係していました。その霊は、手順を経た三一の神の究極的完成です——33 節, ヨハネ 7:37-39, ピリピ 1:19。

***聖霊とイエスの霊(導き)**

B. 使徒第 16 章 6 節から 7 節で、「聖霊」と「イエスの霊」が交互に用いられ、イエスの霊が聖霊であることを啓示しています：

1. 新約で、「聖霊」は神の霊の一般的な称号です——使徒 9:17, 31。
2. パウロは三一の神を内容とする器として、聖霊とイエスの霊から完全に構成されていました——エペソ 3:14-17, ルカ 1:35, 使徒 2:32-36, ピリピ 1:19。
3. わたしたちが主のためにどのような種類の働きを行なうかは、わたしたちがどのような種類の霊によって案内され、導かれ、教えられ、構成されるかにかかっています。すべてを含む霊がわたしたちの構成となる時、わたしたちの働きはこの霊の表現となります——使徒 16:6-7, ローマ 8:9, ピリピ 1:19。

***神はご自身の血を用いて召会を買いました(牧養)**

C. 神は召会を、「ご自身の血を通して」獲得しました——使徒 20:28 :

1. 神は「ご自身の血」という代価を払って、召会を買いました。
2. 肉体と成ることを通して、わたしたちの神、創造主、永遠の方は、人とミングリングされました——ヨハネ 1:1, 14 :
 - a. その結果、彼はもはや単に神ではありませんでした。すなわち、彼は神・人と成り、血を持ち、わたしたちのために死ぬことができました——I ヨハネ 1:7。
 - b. 神・人である主イエスは、十字架上で死んだとき、人としてだけでなく、また神として死にました。
3. 彼が流した血は、人なるイエスの血だけでなく、神・人の血でもありました。
4. ですから、彼の血を通して神は召会を獲得しましたが、それは「ご自身の血」です——使徒 20:28。

イエスの霊に関する啓示:使徒たちの構成、行動の導き

II. 「**イエスの霊**」は、神の霊に関する特別な表現であり、肉体と成った救い主の霊を指しています。彼は、人性におけるイエスとして、人の生活と十字架の死を経過しました——使徒 16:7:

***イエスの霊の要素—神聖な要素と人性の要素があります、**

A. イエスの霊には、神の神聖な要素があるだけではなく、イエスの人の要素と彼の人の生活の要素と彼の死の苦難の要素もあります——1:3。

***イエスの霊の機能—その神性はわたしたちに神聖な命を生きさせ、その人性は正常な人の生活と苦難に耐えさせます。**

B. イエスの霊は、わたしたちが神聖な命を生きるための、イエスの中にある、神性を伴う神の霊であるだけではなく、わたしたちが正常な人の生活をしてその苦難に耐えるための、イエスの中にある、人性を伴う人なるイエスの霊でもあります——ローマ 8:18, II コリント 1:5 :

***パウロは聖霊とイエスの霊の要素から構成されていました**

1. パウロは彼の苦難の中で、イエスの霊を必要としました。なぜなら、イエスの霊には苦難の要素と苦難に耐える力があって、それは迫害を耐え忍ぶことができるからです——コロサイ 1:24, 使徒 9:15-16, 16:7。
2. わたしたちも今日、福音を宣べ伝えるとき、反対や迫害に立ち向かうためにイエスの霊を必要

とします。

*イエスの霊の構成—主が経られたすべての手順を含む

C. イエスの霊は、聖霊よりも多くのものを含んでいます——6-7 節：

1. 聖霊は、主イエスの肉体と成ることと誕生だけを含んでいます——ルカ 1:35. マタイ 1:18, 20.
2. イエスの霊は、彼の人性、人の生活、すべてを含む死、命を分け与える復活、昇天を含んでいます——使徒 1:1-3, 8. 2:23, 32, 36.

*イエスの霊の実際としてのイエスの霊

D. キリストの霊がキリストの実際であるように、イエスの霊はイエスの実際です——ローマ 8:9. 使徒 16:7：

1. もしわたしたちがイエスの霊を持っていないなら、イエスはわたしたちにとって実際にはなりません。
2. イエスがわたしたちにとって実際であるのは、わたしたちがイエスの霊を、イエスの実際また実際化として持っているからです——7 節。

神の王国 — 主題、意義、宣べ伝え

III. 神の王国は、使徒行伝における使徒たちの宣べ伝えの主題です——使徒 1:3. 8:12. 14:22. 19:8. 20:25. 28:23, 31：

- A. 復活したキリストが、四十日にわたって使徒たちに現れ、彼らに「神の王国についての事柄」を語ったという事実が示しているのは、王国が、ペンテコステの後の、使徒たちの来たるべき使命において、彼らの宣べ伝えの主題になったということです——1:3.

B,C,D—神の王国の三方面

*キリスト、このパーソンは神の王国です、

B. 新約によれば、神の王国は、目に見える、物質の領域ではありません。実は、神の王国とはパーソン、主イエス・キリストご自身です——ルカ 17:20-21。

*召会は今日、地上における神の王国です

C. 諸召会と神の王国は並行しています。復活したキリストの増殖によって生み出された諸召会は、今日、地上における神の王国です——使徒 14:22. 20:25：

1. 復活したキリストは、ご自身の昇天において、その霊により、弟子たちを通して、ご自身を増殖しており、この方は神の王国の実際です。神の王国は彼の拡大です——1:8. 8:12：
 - a. 諸召会はキリストの拡大であり、キリストは来てご自身を神の王国の種としてまきました。これは福音書で啓示されています——マルコ 4:3, 26.
 - b. 福音書で、キリストは王国の種でした。使徒行伝には、この種の増殖によって、神の王国としての諸召会が生み出されます——8:1, 12. 13:1-4.
2. わたしたちは諸召会の中でキリストの増殖、またキリストの拡大であり、わたしたちは神の王国を拡張しています——啓 1:9, 11.

*それは神聖な命が支配する領域です

D. 神の王国とは、命としてのキリストがご自身の信者たちの中へと拡大して、神がご自身の命の中で支配する領域を形成したものです——II ペテロ 1:3-11：

1. この王国の中へと入るために、人々は自分の罪を悔い改め、福音を信じて、彼らの罪が赦され、神によって再生されて、この王国の神聖な性質と符合する神聖な命を持つ必要がありません——マルコ 1:15. ヨハネ 3:3, 5.
2. キリストにあるすべての信者は、召会時代にこの王国にあずかり、神の義と平和と聖霊の中の喜びとにおいて、神を享受することができます——ローマ 14:17.
3. 神の王国は来たるべき王国時代において、キリストと神との王国となって、勝利を得た信者たちはそれを受け継ぎ、享受するようになります。それは彼らが、キリストと共に千年間、王として支配するためです——I コリント 6:9-11. ガラテヤ 5:19-21. エペソ 5:5. 啓 20:4, 6.
4. 神の王国は永遠の王国であり、神の永遠の命の永遠の祝福となり、神のすべての贖われた者は新天新地で永遠にわたって享受します——21:1-4. 22:1-5, 14, 17.

E,F,G 神の王国へ入るために患難を経過し、神の王国の拡大のために戦い、増殖のために神の王国を宣べ伝える必要があります

*神の王国へ入るために多く患難を経なければなりません、

E. 使徒第 14 章 22 節でパウロは、その信仰にとどまっている信者たちに、わたしたちが神の王国の中へと入るためには、多くの患難を経なければならぬことを認識するよう、懇願しました。

なぜなら、全世界は、わたしたちがそこに入ることに反対しているからです。神の王国の中へと入ることは、王国としてのキリストの満ち満ちた享受の中へと入ることです。

***神の王国の拡大のために戦いが必要です**

F. わたしたちは使徒第 19 章で、サタンが地上での神の王国の拡大に敵対して戦っているのを見ます。キリストの増殖のための優勢な務めは、神の王国のための戦い、戦闘です——23-41 節。

***増殖のため神の王国を宣べ伝える**

- G. 使徒第 28 章 31 節でパウロが神の王国を宣べ伝えることは、復活したキリストの増殖でした：
1. これは、「主イエス・キリストについての事柄を教え」るという言葉で証明されます。その事柄は、神の王国と並行します——23 節。
 2. キリストについて教えることは、神の王国を拡大することです。ですから、神の王国とは、実は復活したキリストの増殖です。この過程は今日、信者たちを通して継続して進行しています——31 節。